

第三者評価結果（児童養護施設）

種別	児童養護施設
①第三者評価機関名	
特定非営利活動法人	福祉総合評価機構
②評価調査者研修修了番号	
18-B038	
18-B013	
③施設名等	
名称：	児童養護施設 若竹の家
施設長氏名：	峯 真保史
定員：	52 名
所在地(都道府県)：	長崎県
所在地(市町村以下)：	佐世保市柚木町1848番地
T E L：	0956-46-0500
U R L：	
【施設の概要】	
開設年月日	1946/12/27
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 若竹寮
職員数 常勤職員：	36 名
職員数 非常勤職員：	2 名
有資格職員の名称（ア）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	1 名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の人数：	12 名
有資格職員の名称（ウ）	臨床心理士
上記有資格職員の人数：	1 名
有資格職員の名称（エ）	管理栄養士
上記有資格職員の人数：	1 名
有資格職員の名称（オ）	調理師
上記有資格職員の人数：	4 名
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数：	名
施設設備の概要（ア）居室数：	小規模ケア5 地域小規模2
施設設備の概要（イ）設備等：	
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	
④理念・基本方針	
<p>理念：若竹の家はこどもたちの安心・安全を守り、一人ひとりを大切に育み、心身の健やかな成長を支援します。若竹の家では地域と共に連携・協力して、子育て支援を行います。</p> <p>基本方針：施設で生活するこどもたちに、心身の健やかな成長とともに、家庭復帰、また社会への自立に向けた中長期的援助・支援のため、個々の支援プログラムの実現とともに関係機関と連携しながら最善の援助の実現に努めます。また地域の子育て支援の中核を担うべく、必要に応じ施設資源を開放し、提供してまいります。</p>	
⑤施設の特徴的な取組	
<p>若竹の家では地域と連携した子育て支援を行っています。こどもたちには安心安全で安定した生活環境の提供はもちろんのこと、社会への自立に向け広域に、また長期的に個々のこどもたちの特性を考えた様々な援助や、将来への柔軟な方向性を提供できるよう地域、関係機関と連携して取り組んでいます。</p>	
⑥第三者評価の受審状況	
評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2020/5/28
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2020/12/8
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成29年度

⑦総評

特に評価が高い点

■子どもの満足向上を目的とする仕組み整備

年1回のアンケートやハート箱を通して子どものニーズの把握に努め、必要に応じて個別面談や心理士面談等、きめ細やかな支援を行っている。特に毎月開催する子どもたちの自治会では積極的な意見が多く出され、施設全体で子どもが相談や意見が述べやすい環境をつくり、子どもと職員との信頼関係を築くよう努めていることが確認できる。

また、子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすため、職員シフトの調整を行い、職員と子どもが個別に話したり、外出する機会を多く設けている点も子ども本位の養育・支援の具体例であり、高く評価できる点である。

■積極的な実習生等の養育・育成体制

本施設は、実習生等の養育・支援に特に力を注いでおり、実習生から職員採用に繋がることが多い。

施設独自の実習生のしおりをマニュアルとして整備し、実習生等の研修・育成に関する施設の基本姿勢を明文化している。

毎年、多くの育成校からの実習生を受け入れており、各専門職種に応じて学校と連携しながら、実習プログラムをその都度実習生本人に合わせて作成する等、実習指導が行き届いている。

今年度新たに、厚生労働省資料を基に専門性に配慮した教育・実習プログラムを作成しており、内容について学校側と連携して充実を図る等、今後活かす取組みは本施設の優れた点と言える。

■子どもの学力強化に向けた学習支援

基礎学力の向上と学習習慣を身に着けることを目的に、主に小学生を対象として朝学習が定着しており、職員は子ども一人ひとりの学力に応じた問題を作成し、丁寧な学習支援を行っている。この取組みは何年も継続しており学習指導に対する職員の意識が高い。

一人ひとりの学力を強化することで、本人の将来の選択肢を広げたいという一貫した強い思いが学習支援となっており、本施設の特筆すべき点である。

改善が求められる点

■事業計画策定時の職員意見を集約・反映する仕組みづくり

毎年度の事業計画は施設長が作成し、理事会に報告しているものの、職員への開示や説明、意見の聴取や課題の検討・共有は行っていない。

各セクションの現場の意見を集め、具体的な数値計画を盛り込んだ事業計画を作成し、計画の進捗状況の評価・分析を行い、次の事業計画作成に生かすことが、経営上有用と思われる。作成した事業計画を子どもや保護者に説明する環境作りのためにも、職員の意見を集約し反映する仕組みづくりに期待したい。

■職員一人ひとりの育成に向けた総合的な人事管理

施設の期待する職員像は明確にしているものの、一人ひとりの目標管理、個別面談による目標達成度の確認等、職員の育成に向けた取組みは、これからである。

今後、職員の専門性や仕事量、意識や意欲向上に繋がる客観的な評価を示すと共に、職員の意向や希望を確認する等、総合的な人事管理の仕組みづくりが待たれる。

■リスクマネジメント体制の構築

総合防災マニュアルは作成しているが、職員に向けて内容の周知、収集したインシデント・アクシデント事例の分析、検討等、子どもの安心・安全に関わる職員の危険の気づきを促す方法の構築は確認できない。

リスクマネジメント体制整備には施設長のリーダーシップが欠かせないため、今一度、施設長を中心に職員全体でマニュアルの内容確認を行い共有すると共に、収集した事例を分析し改善策や再発防止の検討実施が望まれる。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

第三者評価を受けて、若竹の家の強い面と弱い面がわかりやすく提示されたことで、これからの改善に役立てていけると感じました。また、自己評価を行うことにより自分が分かっている面、分かっていない面を尋ねるなどそれによって職員間のコミュニケーションも増え、施設全体としての力を底上げする機会になり自己の取り組みを客観的に見つめなおす良い機会になったと思います。

利用者アンケートを実施することで、子どもたちの生の声を聴くことも出来ました。これらを活かし、職員と子どもが生活しやすい環境をさらに追及し、ONE TEAMの精神のもと地域にとって必要な施設をつくりあげたいと思います。

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<p>理念や基本方針は明文化し、ホームページと図書館に「若竹の家子育て理念」としてわかりやすい表現で掲示している。また「若竹の家倫理綱領」「若竹の家支援原理」を掲げ、施設長は職員会議時に理念や基本方針についての考えを職員に伝え、認識の共有を図っている。特に子どもの地位が職員よりも上位で、施設が子どもを守る場、育む場であることを明確にし、全職員が理解している。</p> <p>ただし、子どもや保護者に向けて理念や基本方針の説明は特に行っておらず、理念の掲示も図書館のみに留まっている。子どもの目に触れる場所に掲示し、子ども自治会等の場を利用して説明するなど、子どもへの浸透を目指す工夫と取組みが望まれる。</p>		

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<p>施設長は、全国の社会福祉全体の動向を国、県、市からの情報を基に把握している他、児童養護に関する情報は、全国児童養護施設協議会から得ている。更に、佐世保市子ども安心ネットワーク協議会に出席し、子育ての状況について情報収集を行っている。また同じく児童養護施設である清風園と密な関係を築き、施設長間の情報交換や職員同士の交流を行っている。</p> <p>施設では、今年度地域ニーズから新たな計画を立てており、新事業に備えて職員複数名を採用する等、地域の新しいニーズを把握し展開する積極的な姿勢が見てとれることは、施設の特長と言える。</p>		

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○

【コメント】

佐世保市から民間委譲を受けて児童養護施設を運営し6年が経過しており、地域ニーズに応える運営を一步一步進めている。経営課題については、施設長と事務長の間で十分なコミュニケーションが取れており、共有した課題を理事会で報告し、理事から提言もあるという良好な運営状況が見てとれる。
 ただし、職員に経営課題を伝えたり、施設長・事務長と職員との間で課題の検討・共有することは行っていない。施設内の意識を統一して職員間の連帯を更に深めるためにも、経営課題を職員に開示すると共に問題点を共有し、改善に取り組むことが望まれる。

3 事業計画の策定

(1)	中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	

【コメント】

前回の第三者評価では中・長期計画作成は確認できなかったが、新施設完成後、施設長は中・長期計画を立案している。中・長期計画は、「社会的養護の養育・支援計画」「組織体制」「施設環境の整備」「職員体制」「人材育成」「職場環境の改善」の6項目からなり、各項目は現状を踏まえた上で経営課題や問題点を明確にし、改善に向けた具体的な計画を記していることが確認できる。
 現在、職員と考え方を統一する場としてワーキンググループを設立している。
 文書化した中・長期計画に具体的な数値目標を定めると、具体的な目標がさらに明確になると思われる。今後は、数値化を含めた中・長期計画の立案と必要に応じた見直しを行うことを期待したい。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

【コメント】

単年度の事業計画は中・長期計画を反映したものに改善しており、理事会で報告している。単年度計画は施設長が立案しており、実行可能な具体的な内容であることが確認できる。
 中・長期計画とは異なり、単年度の計画は具体的な数値目標や行動目標が明確に定められている。年度末に実施状況の評価を行うことが可能な内容であることが確認できる。

(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	c
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	
【コメント】		
<p>単年度の事業計画は年度末に振り返り、次年度の計画を策定する手順がある。また、計画の実施状況は報告書に明記している。施設長は、各棟、地域小規模ホーム（以降、セクションと表記する）で子どもから具体的な意見や要望を聞き取っていることが確認できる。</p> <p>ただし、事業計画に職員の意見や要望の反映は確認できない。今後は、職員からの意見や要望を基に職員が参画して事業計画を立案し、職員が理解した事業計画の進捗状況を管理し、次の計画に生かすことが望まれる。</p>		
②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	
【コメント】		
<p>事業計画は理事会で報告するに留まり、子どもや保護者への説明は行っていない。各セクションで居住環境が異なっているが、これまでにハート箱と称する意見箱（以降、ハート箱と表記する）に投稿された意見を基に、畳の部屋をフローリングに改修し環境改善を行った例が確認できる。</p> <p>今後は子ども等に向けた事業計画の説明についての検討に期待したい。</p>		

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	
【コメント】		
<p>施設では、子どもの養育・支援に関するミーティングは各セクションで行っており、更に処遇困難な子どもに対する支援方針を検討するケース会議には心理士も出席している。一人ひとりの子どもの養育・支援について組織的にPDCAが回っていることが確認できる。</p> <p>一方で、施設長と職員の個人面談を計画していたが、今年度は新型コロナ禍のため実施できない状況にある。</p> <p>施設では、毎年度自己評価を行っており、3年に一度第三者評価受審も確認できる。</p> <p>ただし、前回の第三者評価の結果はリーダー会議で分析するに留まっている。施設の更なる質の向上のために、今後は組織的に評価結果の分析及び改善計画を行うための場づくりが望まれる。</p>		

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

子どもの養育環境に対する話し合いは、ケース会議やグループ会議を通じて行われている。セクションについては1軒の家庭として見なして環境や雰囲気を整備している段階であり、全体の把握はこれからの課題となっている。前回の第三者評価の結果や抽出された課題を組織的に分析・検討する体制や施設の自己評価や第三者評価結果の分析・検討の文書化も確認できない。今後はケース会議やグループ会議での課題の検討を更に進め、評価結果の分析を組織的に行い、課題を検討し改善に取り組むことに期待したい。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	

【コメント】

施設長の役割は、職員指揮命令系統図及び職務分担表にて明確に示している。施設運営に関する最終権限を持つ施設長は施設運営だけでなく、職員と同様の立場で子どもの支援の現場に入り、養育に従事することがあり、柔軟性を備えている。ただし、自らの役割と責任の表明は職員会議に留まっており、子どもや保護者、外部の関係者に対する表明は確認できない。内外共に、施設長自らの役割と責任、方針等を明文化し表明する等、工夫することに期待したい。また、文書として確認できないものの有事の際に施設長が不在時は、統括コーディネーターに権限委任することは施設内で周知の事実である。新任職員への周知も含め文書の必要性について検討することに期待したい。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

施設長は児童養護施設に関係のある法令について、全国児童養護施設協議会や長崎県・佐世保市からの情報等にて把握している。また、法令に関する説明会等には事務長と共に積極的に参加し、職員会議にて職員が遵守すべき法令の周知を図っている。職員会議録から今回の新型コロナ禍に伴う休暇について職員周知への取組みが確認できる。施設長は外部の利害関係者との関係を随時見直しており、適切な関係の保持していることが確認できる。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

施設長は、施設内の運営会議及び職員会議に出席している。運営会議は施設長その他、事務長、主任、行事委員で構成しており、施設の懸案を検討し決定する場であり、職員会議は全職員が出席し、各セクションのミーティングで検討・決定した事項や運営会議で決定した事項を報告する場となっている。

施設長は、現場での課題に改善策が出た場合は承認することを基本としており、改善の過程は現場に任せ、結果報告を受けている。

また、セクション毎に職員の教育・研修の充実を図り、支援の質の向上に努めている。今年度は新型コロナ禍で外部の研修受講は中断しているが、受講可能となった際は再開する予定である。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

施設長は、事務長と経営改善のために財務の分析を行っており、措置費の内容について随時検討している。更に月に1回、税理士が訪れ財務について指導している。人員配置や労働上の環境整備にも積極的に取り組んでいることが、職員の勤務年数の長さからも見てとれる。

施設長は、経営上の問題は事務長と協議すると共に養育上の問題は統括コーディネーターや主任と協議している。

現在、施設内ICT化に取り組んでおり、NTTのサーバーにて全てのデータを一括管理している。各セクションの記録等も保管し、職員が必要なデータをいつでも閲覧できる仕組みを構築し、業務の実効性を高めていることが確認できる。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果
<p>① 14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。</p> <p>(5種別共通)</p> <p><input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>中・長期計画に福祉人材の積極的任用等、施設全体の職員体制についての具体的な考えを明示している。計画は単年度事業計画と連動しており、該当年度に必要な専門職種を明確にすることで確実な人材確保に繋げている。特に施設を適切に機能させるために必要な人材として、実習生やボランティア等から採用に繋げており、実習生等の教育内容も充実している。</p> <p>全職員が小学校教諭や保育士等の子どもの養育に係る有資格者であり、職員の新規採用の際も計画に基づき資格取得者を採用していることは、高く評価できる。</p> <p>常に職員の勤務経験等バランスを踏まえたシフト作成に配慮し、基準を上回る人員配置に努めているが、今後は各種加算職員の位置づけを明確にし、効果的な配置と計画に基づく育成に期待したい。</p>	
<p>② 15 総合的な人事管理が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。</p> <p><input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。</p>	<p>c</p> <p></p> <p></p> <p></p> <p></p> <p></p>
<p>【コメント】</p> <p>基本理念や倫理綱領に施設が期待する職員像等を明確にしていることが確認できる。</p> <p>ただし、人事基準について職員に周知しておらず、職員一人ひとりの目標管理、個別面談による目標達成度の確認等、現時点では職員自らが将来の姿を思い描くことができる総合的な仕組みづくりは確認できない。</p> <p>今後、職員の専門性や仕事量、意識や意欲向上に繋がる客観的な評価の指標を示すとともに、職員の意向や希望を確認する等のトータルでの人事管理の仕組みづくりが待たれる。</p>	

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

労務管理責任者は施設長であり、各セクションが作成する勤務表は管理職職員が最終的に調整している。職員の希望や各セクションの勤務体制に配慮した細かい時間区分調整は、職員の定着率が高い要因の一つとなっている。施設では、年2回の職員対象の健康診断があり、その結果を基に栄養士、看護師が面談しており、職員が心身共に健康を維持するための仕組みがある。今年度、前回の第三者評価での期待事項であった施設長と職員の個別面談の実施を予定しており、更なる職員が働きやすさを実感できる職場環境への整備が期待できる。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

基本理念や倫理綱領で期待する職員像等は明確である。ただし、施設として職員一人ひとりの目標管理のための仕組みがないため、職員育成に向けた具体的な取組みには至っていない。今後は職員一人ひとりの知識・経験等に応じた目標設定や個人面談で目標達成度の確認を行う等、職員のモチベーションアップの観点からも、仕組みの構築が待たれる。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

事業計画に、職員に必要としている専門資格等を明示すると共に職員研修・出張計画を記載しており、例年計画に基づいた研修を実施している。事業報告には研修等の参加状況を明記し、職員会議で報告している。計画については少なくとも年1回は、年度途中の変更を行っている。今後は、研修レベルに応じた受講者の選択、受講後のフィードバックの方法等を検討すると共に、実態に応じて定期的に評価・見直しを行うことで、更なる職員の育成に繋がることに期待したい。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

各種外部研修は職員配置を工夫し、全職員が年1回は受講できるよう研修計画を立て、受講の推奨を図っている。特に長崎県社会福祉協議会の研修は階層別に知識を得ることができるため、全職員のレベルアップに役立つとして受講を薦めている。

施設内研修は、外部のスーパーバイザーによる定期的な心理学習会がある。また、3名の職員が講師となる新人研修があり、受講する新人だけでなく講師職員の学びの機会にもなっている。全職員の専門性の向上に繋がっており、今後も継続を期待したい取組みの一つである。全職員の教育・研修の機会を保障していることは施設の特筆すべき点である。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

施設独自の“実習生のしおり”をマニュアルとして整備しており、その中に実習生等の研修・育成に関する施設の基本姿勢を明文化している。

更に、今年度は厚生労働省資料を基に専門性に配慮した教育・実習プログラムを作成しており、内容について学校側と連携して充実を図る等、今後活かす取組みは本施設の優れた点と言える。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の有存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○
【コメント】 理念や基本方針、財務内容、第三者評価結果、苦情体制とその結果については、ホームページで公開し運営の透明性を確保するための情報公開が適切に行っている。 社会・地域に向けての理念、基本方針やビジョンを伝える方法として、施設長がメンバーとなっている佐世保市子ども安心ネットワーク協議会や地域各学校校長等が参加する六者懇親会があり、施設長は施設の役割を説明するよう努めている。 また、各大学や民生委員等の施設見学も多く、その際、施設パンフレットを配付し情報開示のツールとしていることが確認できる。		
②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○
【コメント】 職務分担表に事務、経理取引に関する権限・責任を明示すると共に、明確なルールを経理規定に定め職員に周知している。また、ルールの変更等は都度職員会議で事務員が報告している。 年1回の監事による内部監査、毎月外部税理士による監査時の相談・支援等の体制を整備し、適切な経営改善を図り、公正かつ透明性の高い経営・運営に努めていることが見てとれる。		

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○
【コメント】 施設の理念や倫理綱領、更に支援原理に「地域と共に連携・協同し子育て支援を行う」という基本的な考え方を明示している。 子どもたちは地域の子供会に加入し、日頃から地域の子どもとして活動を行っている。例年スポーツ大会、交流会、学校行事等、施設長が保護者として参加し、職員はボランティアとして参加する体制が整っている。 各セクションの子どもたちは、町内の清掃活動に職員と一緒に参加し、交流を図っている。 また、地域の子どもたちが施設の中庭で遊んだり、地域交流室で卓球を楽しむ等、地域と施設の相互交流を大切にしていることは優れた点である。		

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

ボランティア受入れに関する基本姿勢を含むマニュアルを整備しており、事前説明や見学で配慮事項や注意点を理解した上での受入れとなる。

現在、日常的に子どもたちに関わるボランティア受入れは、施設実習後の学生のみである。

その他、定期的に自衛隊や米軍から60名程が施設奉仕作業として施設内外の清掃、除草作業に訪れており、作業後には子どもたちと交流する時間を設けている。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

施設は、子どもにより良い養育・支援を実施するために、必要な社会資源や関係機関をすぐ利用できるようにリスト化している。特に関係の深い児童相談所や小・中学校連合会、佐世保市子ども安心ネットワーク協議会については、定期的に情報交換を行い、共通の問題解決に向けて協議している。

また、退所した子どものアフターケア等を含め、児童相談所や要保護児童対策地域協議会とのネットワーク化に取り組んでいる。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

【コメント】

施設長は地域のニーズや生活課題を把握するため、積極的に各関係機関や団体と定期的に情報交換を行っている。そこで得た情報は、施設内にてパソコンネットワークを活用し職員に発信して共有を図っている。

特に施設内だけでなく、施設が位置する地区の子どもに関わるニーズや課題は、職員会議で取り上げ施設自体が必要とされる役割について、主体的に検討している。

地域と共に子育て支援を行うという理念に沿った取組みは本施設の特筆すべき点である。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○
【コメント】		
施設の地域貢献事例として、職員が各養成校へ講師として出向き専門的な情報を伝えている他、川の氾濫時等、災害時の備えや支援が可能であることを地域住民に伝える取組みがある。 また、3年ほど前に子ども食堂と繋がり、地域ニーズを基に今年11月には子ども食堂に職員が参加する計画を実施予定である。今後も積極的な地域貢献に期待したい。		

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○
【コメント】		
施設では、理念や倫理綱領を示した管理マニュアルを整備している。マニュアルは施設を理解するために初任者研修に利用している。 また、養育支援マニュアルとして、標準的な方法を記載したホームカリキュラムがあり、各セクションの職員は理解して日々の支援に反映している。 人権については「こころのケア学習会」に参加し、子どもを尊重した養育・支援の共通理解を深めるために役立っている。 特に年2回の施設内研修では研修後にアンケートを実施し、その内容が職員自身の養育・支援の見直しに繋がっている点は高く評価できる。		
②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○
【コメント】		
子どものプライバシー保護については規定を整備しており、日常の支援の中で気づいた点を職員が互いに注意し、改善に繋げている。実習生には、子どものプライバシー保護や守秘義務についてオリエンテーション時に説明を行っている。 子ども宛に届いた手紙類は事前に開封することなく本人に渡しており、保管依頼があれば施設長室で保管している。 子どもや保護者に対して、プライバシー保護に関する施設での取組みを、個人情報保護と一緒に説明している。職員には「若竹の家倫理綱領」に子どものプライバシーの尊重や秘密保持を明記し、周知を図っている。		

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

施設の必要な情報はパンフレットを準備している他、施設内の見学も随時受け付けている。ホームページは専任の管理者を設置し、最新の情報を掲載している。
 入所した子ども向けに日常生活のルールをわかりやすく記載した「若竹の家の子どもたちの『お約束』」という文書を整備しており、内容は随時更新している。
 施設では、個人情報の流失の懸念があるとの理由で、施設の詳細な説明は文書ではなく口頭にて行うこととしている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

入所した子ども向けの「若竹の家の子どもたちの『お約束』」と共に、保護者向けに「入所にあたってのお願い」を作成し、入所時に説明している。職員向けにも「入所児童受け入れマニュアル」を整備し、随時更新している。
 子どもの日課については、ルビ付きの日課表を作成している。子どもの好きなもの等が判明した際は、1ヶ月後の自立支援計画に記載し、支援に反映している。持参品については、児童相談所を通じて対応し、子どもの意思を可能な限り尊重している。
 文書での説明が苦手な子どもには、口頭でわかりやすく説明している。電灯のスイッチに子どもが描いた絵を貼って、視覚的にわかるような工夫も行っていることが確認できる。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】

養育・支援の変更の際は、自立支援計画やフェイスシート、アセスメントシートに基づいた引き継ぎ文書を作成し、移行先の事業所等へ渡している。学校、社会福祉協議会、民生委員との連携も行っている。これに加え、ファミリーソーシャルワーカーが連絡し相談に乗る体制を作る等、措置変更後のフォローを行っている。
 措置変更については、移行する施設に向けて引継書を出したり、逆に乳児院から引継書を受け取ることもある。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。		第三者 評価結果
①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○
【コメント】		
<p>年1回の利用者アンケートの他、嗜好調査は随時行っている。また、各セクションにハート箱を設置し、回収担当者を定め結果の分析・検討を行っている。</p> <p>特にセクション毎に子どもが中心となり運営している子ども自治会は子どもたちが活発に発言しており、その都度職員が見守り、助言する体制を構築していることが議事録から読みとれる。</p> <p>心理士による心理セラピーは専用の建物内で行っており、子どもの希望に沿って遊びながら、或いは時間外にも対応している。</p> <p>子どものプライバシーを守りながら、子どもの要望を職員が把握する体制を整えていることは優れた点といえる。</p>		
(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		
①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
【コメント】		
<p>苦情解決の仕組みは子どもたちが十分理解しており、各セクションに設置しているハート箱に多くの意見が投稿されている。職員は、ハート箱の中身を月1回収し、子ども自治会にて公表可能なものは公表し、子どもたちの納得する回答となるよう心掛けている。</p> <p>子ども同士の問題については、担当職員が個別対応し解決を図っている。公表可能かどうかは子どもに確認し、可能と回答があったもの限り公表しており、本人の意向を尊重していることが確認できる。</p> <p>苦情解決の仕組みが確立し、運用している点は特筆すべき点である。</p>		
②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○
【コメント】		
<p>ハート箱には多くの意見が寄せられ、職員はどんな些細なことであっても用紙に記入された内容を注視し、用紙をノートに貼付して対応策を記入し、職員間で共有している。</p> <p>子どもの成長に合わせて職員が個別に話を聞き取ると共に複数の職員で対応している。場所は各セクションの部屋だけでなく面会室や地域相談室を利用しており、プライバシーに配慮した環境を確保する姿勢が見てとれる。更に、小さな子どもにはセラピー室を使い、遊びながら意見を聞き取る等の工夫を行っている点は、高く評価できる。</p>		

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【コメント】

子どもがハート箱に入れた意見を記した用紙は苦情解決綴に綴じ、解決までの経過を記録している。また、利用者アンケートを年1回行い、本人の同意を得たものは子ども自治会の場で公表している。
子どもから収集した意見は朝礼・終礼で報告する他、担当職員間で話し合い、共有している。
ただし、セクションを超えて共有を図っていないため、今後は全職員が情報を共有し対応策を検討する組織的な仕組みづくりが望まれる。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

総合防災マニュアルを作成している。事故発生時の責任者が施設長であることを明示し、手順等も明確にしている。ただし、マニュアルの内容等積極的な周知は行っていない。
また、インシデント・アクシデント規定を基に、子どもの安心と安全を脅かす事例収集を行っているが、インシデントとアクシデントの混同が見られる。
再度、職員全体で規定確認を行い共有すると共に、収集した事例を分析し改善策や再発防止の検討が望まれる。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

感染予防の管理体制は施設長が責任者であり、看護師が中心になり感染症マニュアルに沿って、予防、安全確保等の情報提供を行い、職員に周知を図っている。
特に、今回の新型コロナウイルス感染予防策として、子どもに帰宅後の手洗い、手指の消毒、外出時のマスク着用を奨励している。更に、検温表等の対応の他、対策表を新たに作成し保護者や実習生に向けて周知徹底する等、子どもの安全確保のための迅速な取組みは本施設の特長である。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

災害時の対応体制は総合防災対策マニュアルに定めており、毎月職員会議後に避難訓練を実施している。不定期ではあるが地域消防団との訓練実施もあり、安否確認方法も決めている。
 自然災害に関しては2、3日分の食糧や備品類を備え、給食関係者が管理している。
 ただし、施設の立地条件としては土砂災害警戒区域であるものの、それに対する避難計画は策定していない。今後、避難誘導職員、避難先、方法、ルート確認等、災害時の対応体制の他、施設において事業継続が可能な場合の具体的な計画の検討、取組みが望まれる。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○
【コメント】		
施設では、子どもの尊重や権利擁護、プライバシー保護を含んだ職員の行動及び留意点を記載した処遇マニュアルを作成しており、職員の標準的な実施方法の基準となっている。 処遇マニュアルは初任者研修に利用すると共に、各職員が基本に立ち返る指標となっている。 更に、処遇マニュアルを基に自立支援計画を作成しており、その実施内容を確認することで標準的な実施方法の理解度が評価できる仕組みになっている。		
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○
【コメント】		
養育・支援の標準的な実施方法として処遇マニュアルがあり、セクション毎に備え付けており、養育・支援の援助方法の基本としている。 毎月の職員ミーティング時、処遇連絡を行い子どもの日常支援の内容に変更があった場合、自立支援計画の変更を行い、その状況を踏まえた上で年1回処遇マニュアルを現状に合った内容に検討、見直しを実施している。		

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

施設では、アセスメントシートとして入所時記録用紙を利用している。これは児童相談所からの情報がベースとなっており、アセスメントの内容等各セクションで隔たりがあり、統一したアセスメント手法の確立は今後の課題である。

自立支援計画は、子どもの生活、学習、家庭、心理面で各目標を立て、毎月の会議で詳細な処遇連絡を行い職員間で共有し、子どものより良い支援に繋げている。

支援困難なケースの対応は、心理士や家庭支援専門相談員等必要な専門職がケース会議に加わり、児童相談所と連携して適切な養育・支援を行っている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

処遇マニュアルや児童処遇関係取扱説明書を基に、年3回自立支援計画の評価・見直しの実施を行っている。

評価・見直しのベースは毎月の処遇連絡の記録で、その内容については月1回の会議時、参加職員と意見交換すると共に、子どもと直接面談し目標が達成できない場合は目標ランクを落とす等、子どもの現状に沿って支援計画の変更を行っている。

また、保護者の状況が急変した場合や子どもの突然の行動変化など、緊急な場合にも関係職員や関係機関と協議し見直しを行っている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設内 I C T ネットワークを利用して、施設共有のフォーマット様式の自立支援計画や日誌について施設全体で情報共有できる体制を整えている。

記録内容についてケース記録マニュアルを作成しており、書き方に差異が生じないように工夫している。

日々の記録内容や支援状況は、組織別、目標別の定期的な会議で共有し、統括コーディネーターを中心に施設内の情報の流れを明確にする仕組みを構築している。子どもに関する養育・支援の記録を適切に行い、職員間で共有する仕組みが稼働していることは、施設の特長である。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設長が個人情報取り扱い責任者であり、文書取扱規定を基準に記録の管理を適切に行っている。

特に施設内で自立支援計画等パソコンで共有しているため、I C T 運用管理者2名がマニュアルに沿って I C T 環境を安全に運用できるよう管理している。

記録や I C T 環境に関しての個人情報保護に関して職員に説明しており、保護者には年1回個人情報関係を含めた家庭状況の調査を行い、意向の反映に努めている。

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果
<p>① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。</p> <p><input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

【コメント】

子どもの権利擁護については、処遇マニュアルを基に職員間で考え方を共有している。また佐世保市が年2回開催する“心のケア学習会”に栄養士を除く全職員が参加しており、どのようなことが虐待になるかを学習している。これをケース会議に繋ぐことがあり、権利侵害になっていないか、行きすぎた指導になっていないかを職員間で確認し、認識の共有化に努めている。

子どもの思想・信教の自由を保障し、LGBTQに対する配慮を行い、子どもに寄り添う姿勢は特筆すべき点である。

(2) 権利について理解を促す取組	
<p>① A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

【コメント】

“心のケア学習会”をはじめとした研修会や施設内研修会により、子どもを取り巻く現状の把握に努めている。子どもに権利ノートを渡す際は、細かな説明は敢えて行わず、大人の誰にでも相談して良い旨、説明している。自傷等、心理的ケアが必要な子どもには構い過ぎないように心掛け、心理士が医療機関に繋げている。職員は、高校生等思春期の子どもへのケアについての更なる必要性を感じている。更なる取組みに期待したい。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	○

【コメント】

子どもが自身の生き立ちについて尋ねたり、心理士から希望が強く出ていると報告があった場合は、職員が個別に対応している。その際、担当職員は伝え方や内容について子どもに関わる全ての職員と協議し、慎重に一人ひとりのタイミングを考慮し、適切に事実を伝えるように努めている。
 事実告知後は全職員及び学校等に報告し、子どもの変容を見守り、心理士と相談しながらフォローを行っている。
 現在、一人ひとりのアルバムは作成していないため、本人の生き立ちまで遡れるよう整備することが望まれる。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

これまで職員が子どもに対して体罰的な行為を行った事例は確認されていない。万が一、施設内で虐待が疑われる事案が発生した場合は、施設長に報告後、児童相談所を通じ長崎県こども家庭課へ報告するフローチャートを整備している。
 施設内には、ハート箱を設置しており、子どもは苦情に限らず自身の気持ちなどを記した用紙を投函している。ハート箱を利用することが日常となっていることは、優れた点といえる。
 子どもには権利ノートを配付し、子ども自治会などで施設内だけではなく外部にも申し出ることができることを伝えている。
 職員が子どもと関わる中で、厳しい口調があった場合は、施設長が直接対応している。子どもと職員との相性もあるため、全ての職員に自身の支援を振り返り、不適切な対応になっていないか自覚を促す方法として自己評価の利用等、今後の検討に期待したい。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子ども自治会を中心として、子どもが生活全般について考える機会を確保している。表出した問題は職員のケース会議で共有・検討し、セクションの判断で必要に応じ職員会議でも検討している。
 中・高校生とは定期的に、小学生とは添い寝の時間等に意見を聞き、養育に反映している。
 余暇の過ごし方は自主性を尊重し、ピアノや卓球、読書が自由に出来る環境を整備している。子どものお金の使い方などについての指導は、各セクションで行っている。
 休みの日には小学生、中学生と高校生と一緒に買い物に出掛け、子ども自身が選び、好きな物を購入する機会がある等、子どもの主体性を育むさまざまな工夫は、大いに評価できる。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

入所時は本人が慣れるまで職員1名が専任となり、子ども同士の繋がりが出来るまで見守っている。入所後、以前の友人との接触や手紙のやりとりについては、入所を公表している場合は認めている。
 受入準備として、部屋に名前を表示し、最低限必要な文房具を揃え、温かく迎えるよう心掛けている。着衣は入所後に希望のものを購入している。
 施設変更については、移行する施設に向けて引継書を出したり、逆に乳児院から引継書を受け取ることもあり、継続して安定した生活に役立つよう支援を行っている。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生時の連絡などにも対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

退所後の相談は随時受け付けている。学校や社会福祉協議会、民生委員との連携も確認できる。退所後に金銭的な問題が発生した場合には、社会福祉協議会を紹介するなど本人の社会生活が継続できるよう支援している。
 退所者の状況の把握には努めているが、細かな生活状況や家庭に戻った後の状況把握は困難を伴っている。一方で退所者が訪問する機会が多く、退所者による講演会を開催したことも確認できる。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○
【コメント】		
職員は児童記録等から子どもの成長歴を把握し、一人ひとりの子どもが表出する感情や言動の背景の理解に努めている。子どもが自ら何らかのアクションを起こす場合は受容・傾聴の姿勢で向き合っている。 新人職員が言葉掛けや返答に困る場面もあるため、さまざまな知見や経験を持つ職員と3人体制で、互いに情報を共有しながら、その子どもにとって一番いい対応を心掛けている。また、子どもが表出する感情の汲み取り方は職員によって異なるため、時間を掛けて理解に努め、信頼関係を築くよう体制を整えている。 行動上問題がある子どもの場合は心理士を交え検討を行い、学校や医療機関等と連携して対応している。		
②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	○
<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○	
【コメント】		
生活のきまりは、毎月子ども主体で開催する子ども自治会にて自分たちで定め、担当職員は秩序ある生活の範囲内で子どもたちの意思を尊重し、柔軟に対応している。小規模化に伴い子ども一人ひとりの生理的、心理的欲求を満たすため、職員は添い寝の他、ゆっくり話す機会を作ったり、個別に外出する等シフトの調整を行いながら、日常生活の営みを通して個別に関わる時間を取り、信頼関係を育むことに努めている。 個別に関わる時間を取るために組織的な職員配置の工夫が見られ、特に本施設が努力している点と言える。		
③	A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	○
【コメント】		
“がんばり表”を活用して、子どものやる気を促し達成感を感じる工夫、暮らしの目標として自分のことは自分ですることを促している。 職員は子どもの発達段階に応じて援助し、励まし、指導を行いながら、子ども自身が職員に信頼され見守られていると感じることができるよう対応を大切にしている。 宿題の時間では常に2、3名の職員が援助している。朝の学習時間では、教職の経験を生かして職員自ら問題を作成する等、充実した配慮を行っていることは施設の特長である。		

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	○

【コメント】

各セクションでの養育は、基本のデイリープログラムを基に各セクションで工夫し、柔軟に実施している。子どもの年齢幅が大きいため、日常の中で発達段階に応じたニーズの把握に努め、可能な限りニーズに応えている。応えられない場合は子どもが納得できるようにその都度説明している。
施設内には図書室があり、子どもたちは、多種多様なジャンルの書籍を自由に選んで読書に親しんでいる。近隣に幼児が遊べる公園がないため、少し遠方であっても安全に遊べる社会資源を活用している。
また、学習ボランティアとして実習後の学生等に協力を得ている等、学びや遊びの場を保障している。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	○

【コメント】

各職員は子どもと日常生活を営みながら、一人ひとりの子どもができることを増やすと共に、子どもの模範になるような振る舞いや態度を心掛けている。
また、子どもの自治会を通して施設内のルールや社会のルールを伝える他、地域の行事や清掃、祭り等に子どもと一緒に参加し、自然に社会性が習得できる機会を多く設けている。
その他、子ども自身の衛生管理、安全な交通ルール、SNSやインターネットの使用法や危険性の周知等、子どもを守るための支援を行っていることが見てとれる。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですることができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

それぞれのセクションのリビングで職員も一緒に食事しており、食事の時間は子どもと職員、子ども同士のコミュニケーションの場となっている。食事は自分の場所を意識することができるよう固定の席であり、ランチョンマットを利用しているセクションもある。また、年齢に応じてクラブ活動後に帰宅する子ども等、食事時間帯の配慮も見られる。

施設では、月1回の給食委員会で子どもの苦手な食材や好きなメニュー、残食等を共有し献立作成に活かしている。

栄養士は今年度入職しており、定期的に子どもと調理したり、行事食を提供する等、食への関心を育んでいる。更に、栄養士は今後は食育の一環として子どもたちに調理前の野菜を見せることで「もったいない」という概念が身に付くような取組を望む等、積極的な姿勢が見られ、子どもたちの食に関する興味が増すことが期待できる。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子ども自身で衣類の管理ができるように一人ひとりに衣装ケースを準備し、小・中学生までは職員と一緒に衣替えし、衣習慣が身に付くよう援助している。

施設では、子ども自身が衣類を購入できる機会を設けており、年間の費用を計算しながらお洒落を楽しむ等、自己表現ができる支援がある。また、通信販売を利用する場合は職員に相談している。

職員は洗濯やアイロン掛け、補修等を子どもと共に行うことで、衣類を大切にすることを育んでいる。

子どもの各部屋には、きちんと整えてハンガーに掛けられた衣類が見られ、日常的に衣習慣が身についていることが窺える。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○

【コメント】

居室は、個室や二人部屋等は兄弟や生い立ちに合わせ、子どもの希望を中心に決定している。貴重品の収納用に鍵付きチェストを一人に一個配置している。
共有スペースであるリビングでは、誕生日や行事の日には何の日か判るように表示し、表示方法も子どもと相談して工夫している。掃除は子どもが自主的に行い、職員は手伝いに徹している。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○

【コメント】

子どもは起床時に体温測定を行い、朝食時に顔色を確認している。通院が必要な場合は、付き添う職員を固定しており、看護師を通じて医師と連携し、日誌に報告内容を記載している。
子どもに対して医療的ケアは行っておらず、本人への薬の必要性の説明は医師が行っている。
内部研修として、佐世保市から保健師を招いて感染症について学んだり、専門の医師を招いてエピペンの使い方を習得している。これらの資料をいつでも確認できる状態にしている点は優れた点と言える。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	

【コメント】

施設では性に関する正しい知識を得るために看護師を中心に外部の学習会に参加し、知識の習得に努めているが、現在、内部研修や外部講師の招聘は行っていない。
必要に応じて性教育マニュアルを基に、同性の職員が子どもの相談に応じている。
特に中・高生には慎重に対応することを心掛け、普段の会話に織り込んで伝えている。
障害を持ち支援が必要な子どもに対しては、異性との距離の取り方や体の変化について教える等、個別に対応している。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【コメント】

職員は、小学生が思いを言葉で表現できず興奮して物を投げるなど不適応行動があった場合は、個室でクールダウンを図る等、できるだけ個別対応の時間を多く確保するよう心掛けている。

子ども間で問題が生じた際は、職員が仲裁し解決を図っている。また、子どもの希望を注視し、職員との相性に悩んでいる場合は職員の配置換えを含め、臨機応変に対応している。

また、職員が子どもから不適切な行動を受けた場合は、心理士が対応し職員の心のケアを行っている。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになってきている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○

【コメント】

子どもが別のセクションに異動する際は、子ども同士の関係性を重視して構成している。力関係で切り離しが困難な場合は、本館から地域小規模施設へ変更する等の対応を行っている。

入所間もない子どもへの配慮として、児童ワーカーや行政担当課職員に訪問を依頼し、情報を共有し、見るべきところを把握した上で個別対応を行っている。その上で施設長、統括コーディネーター、担当職員で相談の上、最適な手段を選んでいる。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

施設には遊戯室と地域相談室からなる独立した1棟の心理棟がある。心理的ケアが必要な子どもに、臨床心理士が対応して支援を行っており、小学生には遊びながら、中・高生には地域相談室にてじっくり話を聞くことで、心理療法を行っている。

職員のケアについて、心理学習会や外部講師による心のケア学習会等の体制が整っていることは優れた点といえる。

ただし、現在、職員が外部の専門家からスーパービジョンを受ける体制は整備されていない。今後、子どもや保護者への更なる支援に繋げるため、外部の専門家による職員へ個別のスーパービジョン体制を整備することに期待したい。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

前回の評価でも施設の特筆すべき点として挙げていた小学生を対象とした朝学習は現在も継続しており、子どもたちの基礎学力の向上や学習習慣に大きく役立っている。
施設全体で一人ひとりの学力を強化し、子どもの将来的な選択肢を広げたいという一貫した思いが強く、学習環境の整備や学力に応じた学習支援に注力している点は特筆すべき点である。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○

【コメント】

進路選択に関しては、保護者や学校と連携し子ども本人の意見を尊重しながら早期の情報提供に努めている。オープンスクールの参加や進路説明会に参加する等、具体的進路生活が理解できるよう子どもと担当職員が十分に話し合い、自己決定を促している。
特に学費の面で奨学金の窓口や授業料免除等の仕組みを教え、子どもが進路について希望が持てるように支援している。
十分な話し合いの上決定した進路であっても、中途退学や不登校になる場合もあり、その対応はセクションで違いがあり、施設全体としてのフォロー体制の確立には至っていない。今後のフォロー体制の確立を期待したい。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

学校の許可が前提ではあるが、アルバイトを推奨している。社会の仕組みやルールを体験したり、職員の知り合いの所でさまざまな職場を見学できる機会を設けている。
これまでに障害を持つ子どもが、職場体験から就職した事例がある。
今後も、子どもたちの自立に向けた計画的な準備のひとつとして、職場実習先の開拓等、実習を通して子どもの社会経験の拡大への充実した取り組みが望まれる。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

各セクションの職員は、子どもに関する学校、地域、施設の行事等の予定を随時家族に知らせており、参加の協力を得る等、子どもと家族の関係性の再構築に努めている。
 家庭支援専門相談員は、子どもと家族の交流状況の記録を各セクションに配付し、職員の情報共有を図り、家族関係調整や相談に取り組んでいる。特に一時帰宅後の子どもの様子や、会話の中で不安な様子がないかを観察し、状況によっては心理士、児童相談所と情報共有を行うなど、保護者との継続的な関係づくりに取り組んでいる点は高く評価できる。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

家庭支援専門相談員は、親子関係の再構築に向け、その経過を自立支援計画の交流頻度や引き取り目途に記録し、評価する仕組みがある。
 保護者の状況については児童相談所と連絡を密に取り、必要に応じては家庭訪問を行い家庭復帰を目指している。
 子育て以前に家庭生活面で支援が必要な家族の場合もあり、今後、親子関係調整室の活用が待たれる。